

会 告

「腹腔鏡子宮摘出術と子宮筋腫核出術における電動モルセレータ使用について」

先般、電動モルセレータの使用状況につきまして本学会認定研修施設および技術認定医在籍の施設にアンケートを行い、9月に結果をご報告いたしました。その後、未回答施設へ回答要請を行いましたので、改めまして下記のとおり集計結果を報告申し上げます。

また、悪性症例の報告があった施設につきましては、ケースカードを作成し追跡調査を行いました。今後、学会といたしましては更なる調査を行ったうえで、学会発表及び論文発表等行う予定でありますことを併せてご報告申し上げます。

平成27年3月
一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会
理事長 吉村泰典
調査普及担当常務理事 原田 省

アンケート回答を得られた施設での集計結果

- ◆ アンケート対象施設：認定研修施設および技術認定医在籍施設 311 施設
 - ◆ 調査対象期間：2011 年～2013 年の 3 年間
 - ◆ 回答施設数：203 施設 (65.24%)
- (1) 手術内容別実数
- 1) 子宮全摘出術：39,999 例
 - 2) 子宮筋腫核出術：32,105 例
- (2) 術前検査実施状況
- 1) 超音波検査：子宮全摘出術 100% 子宮筋腫核出術 100%
 - 2) MRI 検査：子宮全摘術 99.5% 子宮筋腫核出術 99.5%
 - 3) 子宮頸部細胞診：子宮全摘術 97% 子宮筋腫核出術 92.6%
 - 4) 子宮体部細胞診：子宮全摘術 71.9% 子宮筋腫核出術 51.2%
 - 5) 血清 LDH 測定：子宮全摘術 77.3% 子宮筋腫核出術 75.9%
- (3) モルセレータ使用状況
- モルセレータは、腹腔鏡下筋腫核出術と腹腔鏡下膈上部切断術においては、80%以上の症例で使用
- (4) 術前に子宮筋腫の診断で手術が施行された 72,104 例のうち、悪性疾患は 63 例 (0.09%) で認められた。
- (5) 術式別に悪性疾患が認められた症例数
- 1) 開腹子宮全摘出術：21,935 例中 27 例 (0.12%)
 - 2) 腹腔鏡下子宮全摘出術：18,064 例中 24 例 (0.13%)
 - 3) 腹腔鏡下筋腫核出術：20,120 例中 7 例 (0.03%)
 - 4) 腹腔鏡補助下筋腫核出術：3,758 例中 2 例 (0.05%)
- (6) 播種のあった症例数
- 1) 全 体：11 例 (開腹手術、腹腔鏡下手術)
 - 2) 開腹手術では：6 例
 - 3) 腹腔鏡下手術では：5 例 (うち 3 例が開腹移行)
- (7) 腹腔鏡下手術において、術後悪性の診断となった症例数
- 1) 全 体：30 例 (開腹移行の 3 例は除く)
 - 2) 悪性腫瘍の播種：4 例 (腹腔鏡下子宮筋腫核出術 2 例、腹腔鏡下子宮全摘出術 2 例)
 - 3) 上記 2 例のうち、腹腔鏡下子宮筋腫核出術ではモルセレータが使用された。2 例とも現在治療中である。
- (8) 術前インフォームドコンセント実施状況
- モルセレータによる播種のリスクについてインフォームドコンセント実施は 30.04%であった。